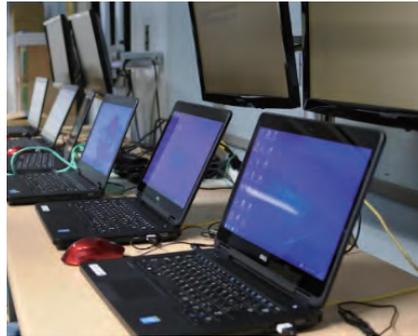


こころ



THCU Chronicle *Heart* No.27 Spring 2019

第27号



【上段】右：医療保健学部 医療情報学科「医療×IT」両方を学べる大学 左：医愛祭の装飾「アンブレラフラワー」和歌山雄湊キャンパス 【中段】右：医療保健学部 看護学科「クリニカルスタディ1月号」取材にて 左：「糖尿病いきいきレシピコンテスト」最優秀賞受賞レシピ 【下段】右：国立病院機構災害医療センターのヘリポート 左：世田谷キャンパス「COLLEGE COURT」日差しが差し込むテラス席

**東京医療保健大学 SNSを活用した情報配信を開始!**

本号にて、本学公式 SNS が始動しましたことを報告します。SNS では、大学全体を紹介する公式アカウントと、学部・学科に特化したアカウントが稼働しており、それぞれインスタグラム、ツイッター、フェイスブックにて情報を発信しております。SNS は、大学ホームページや大学案内・各広報媒体とは違った角度から大学の取り組みや特色を紹介するツールとして活用でき、受験生に限らず老若男女・国内外問わず見ていただけることが魅力となります。

その時期に合ったキャンパスや学生の様子を中心に、東京医療保健大学の「今」をお届けしていきます。各アカウントの詳細は、最終ページをご覧ください。

CONTENTS  
目次

- 2 ・「アクションプラン」の策定について
- 3 ・「情報スタディラボ」開設について
- 4 ・医療保健学部 看護学科
- 5 ・医療保健学部 医療栄養学科
- 6 ・医療保健学部 医療情報学科
- 7 ・東が丘・立川看護学部 看護学科
- 8 ・千葉看護学部 看護学科
- 9 ・和歌山看護学部 看護学科
- 10 ・大学院 医療保健学研究科
- 11 ・大学院 看護学研究科
- 12 ・2019年度オープンキャンパス等日程
- 13 ・放射線看護研修センター  
・産後ケア研究センター
- 14 ・国際交流
- 15 ・女子バスケットボール部の活躍
- 16 ・Topics

# 『東京医療保健大学ビジョン』の 実現に向けたアクションプラン』を策定しました

本学は、2017年11月に「10年先を展望した本学のあるべき姿」を示すため、東京医療保健大学ビジョン（以下、ビジョンといいます）を制定しました。このビジョンで掲げている「多様な価値観を尊重し、一步先を歩み続ける開かれた大学」づくりに全教職員が取り組む羅針盤として、本学では2018年9月に『東京医療保健大学ビジョン』の実現に向けたアクションプラン（以下、APといいます）を策定いたしました。

APでは、ビジョンで掲げている6つの柱にそって「各部局の取り組み」と「全学横断的取り組み」を示しています。本学の各学部・学科・研究科・センター等の組織には、それぞれ特色があります。その特色を発揮した日常的な教育・研究・社会貢献活動も、APでは重視しています。さらに学長のリーダーシップのもとで各部局の特色を全学横断的に活かし、更に魅力的な大学づくりを目指すことも、APの大きなねらいです。

## ■本学は「一步先の医療保健の創造」を目指しています

本学のビジョンでは、「一步先の医療保健の創造」という大きな目標を掲げています。この点について、少し詳しくご説明申し上げたいと思います。本学は、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を建学の精神としており、ビジョンやAPもこの精神に基づくものです。他方、世界最長寿を達成したわが国では、「よりよい生」とは何かを一言で言い表すことが難しく、その探求が大きな社会課題となってきました。本学には「医療保健従事者として最も人数の多い看護職の養成に関して、わが国最大規模の大学」という側面もあり、この難しい課題に教育・研究・社会貢献を通じて真正面から取り組む責務があると考えました。そこで、人類にとっての医療保健のあるべき姿や、持続可能な医療保健サービスの形、これを実現するための人的基盤・技術的基盤等を考え続け、同分野のトップランナーとして走り続けていくための具体策を、APには盛り込みました。

## ■アクションプランの一部をご紹介します

アクションプランの全文は、本学のウェブサイトでご覧いただけます。ご興味のある方は、ぜひお読みいただければ幸いです。紙幅の都合もありますので、ここでは、学生・卒業生とのかかわりが深い分野についてご紹介します。

### <2. 専門性の高い心温かい医療人の育成>

本学では、各部局とも「心温かい医療人育成の推進」を重視しています。このため、「いのち」「思いやり」「絆」「愛」に関して、ボランティア等の自主的な学習活動を推進し、その件数や参加学生数を目標値として掲げていくことにしました。とくに健康寿命を伸ばすことに関して産学協同による授業を重点として設定し、これらは各キャンパスの所在する地域との関係性を尊重して進めて参ります。

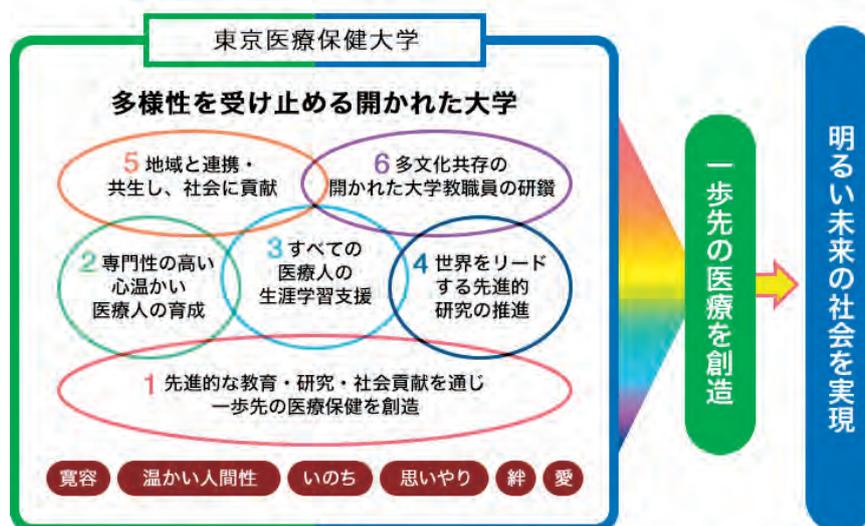
### <3. すべての医療人の生涯学習支援>

医療人は、生涯にわたって学び続けることが必要です。そこで、本学の各部局では、卒業生を含めた、すべての医療人が受講できる研修会を増やしていきます。これらの研修会は、大学院や本学教職員が関係している専門学会・研究会とのタイアップを通じた質の高いものとしていきます。また、卒業生と大学、大学と社会をつなぐ基盤づくりの一環として「一步先を歩む医療人のポータルサイト」の構築に向けて準備を進めて参ります。

## ■全ての教職員でAPに取り組んでいきます

APには、全ての教職員の参加が不可欠です。このことから、本学では各部局が参加する学長室プロジェクトチームを立ち上げています。このチームは、学長のもと、各学部・学科の教員が1名、及び事務局長で構成しています。構成員は各部局の代表者という立場を超え、全学的視点に立ってAPの推進を担う役割を負っております。学長室プロジェクトチームでは、2019年度から始まるAPに基づく各部局の取り組み、全学横断的取り組みを、様々な形でご紹介して参ります。どうぞご期待下さい。

学長室プロジェクトチーム／IR推進室長補佐  
医療保健学部 医療情報学科 准教授 瀬戸 僚馬



## 情報教育研究センター（通称：情報スタディラボ）の開設

情報教育研究センター（以下、センターとする）は、医療情報学科学生の資格取得の支援を行う目的で、平成30年10月1日より世田谷キャンパスA 405に開設し、10月15日（月）より本格的に始動しました。この背景には、経済産業省が推進する、医療産業界における高度IT人材の育成があります。

新たな未来社会「Society 5.0」の実現において、医療産業、ヘルスケア産業界は非常に大きな役割を担っています。IoT、ビッグデータ、人工知能、ロボットなどの次世代技術は、第4次産業革命を迎えた今、新たな社会の構築に欠かせない最先端テクノロジーとして発展を続けています。

そのような社会を支えるべく、医療情報学科は、医療分野と情報分野の双方の知識を身に付けた先端IT人材の育成に力を入れています。



情報教育研究センター（情報スタディラボ）の様子

ます。医療・情報系の資格の価値は社会において高く評価されており、両分野の専門知識・資格を併せ持つことは就職活動の上でも非常に有効であることから、センターでは、資格取得への幅広いサポートを行います。ITパスポート試験、基本（応用）情報技術者試験、医療情報基礎知識検定、医療情報技師能力検定の5つの資格試験を対象とし、受験の申し込みから受験後のアフターフォローまで手続を支援する他、各種対策講座やイベントの開催、適切な学習環境の提供など、サポートを強化していきます。

更に今後は、高校生向けのイベントや資格対策講座など、高大連携を意識した取り組みを行い、社会のニーズに対応した教育力と資格取得を目指せる学習環境を、センターを通して発信していきます。



## キックオフイベントの実施とTwitterアカウントの開設

センター開設にあたり10月12日（金）に開催したキックオフイベントでは、木村学長とセンター長である石原学科長にご挨拶を賜り、医療情報学科教員を代表して、津村教授より乾杯のご挨拶をいただきました。学生はもちろん、医療情報学科教員や事務職員も出席していただき、軽食と飲み物を片手に歓談しました。

センターの見学とロゴマーク投票も行われ、「聴診器を付けたロボット」をモチーフとした、可愛らしく親しみの持てるロゴマークが選ばれました。ロゴマークは現在センター入り口に設置してあります。



ロゴマーク

また、医療情報学科在学生に向け、Twitterアカウントを開設しました。資格試験の情報や講座・イベントのお知らせ、学習に関する豆知識など、資格取得を常に意識することができる情報を発信していきます。



キックオフイベントの様子

## 老年看護学領域における地域との協働<ハンドインハンド> ～五反田ビジョン2030の具現化を目指して～

医療保健学部看護学科老年看護学領域は、五反田ビジョン2030で掲げている「地域への愛」の具現化を目指し<ハンドインハンド>を立ち上げ、3ヶ月に1回、看護職の顔が見える関係づくりや施設活動の情報交換、勉強会の開催をしています。地域包括ケアの最先端にいる看護職は、日々生じるケアへの疑問や戸惑いに対し試行錯誤しています。高齢者福祉施設の看護職は少人数であるために、品川区内における他施設の看護職との意見交換や勉強会の場の設定が地域の課題でした。

この度<ハンドインハンド>発足1周年を迎えるため、高齢者ケアに関する講座開催を企画し、2019年1月22日品川区後援「高齢者の口腔機能とケアについて」～いまさら聞けない知識の確認とアドバンストまで～と題し、国際医療福祉大学 石山寿子先生（摂食嚥下障害学）を招聘して公開講座を開催しました。

公開講座へは品川区内外の病院・福祉施設から48名の参加者が集いました。参加者の職種は、看護職だけでなく介護福祉職、歯科職、リハビリ職と多職種であったことから、講義冒頭は「職種の特性を知る」事への提言からはじまり、高齢者の口腔機能の特性や姿勢制御、高齢者の口腔状態を実感する演習やよい反応を引き出すケアの演習（写真左、演習時の様子）が行われ、講座終了後も交流場面が散見する中で盛会の内に終了しました。

なお、本公開講座の開催にあたり本学助成金「学長裁量経費」の助成を受けて実施し、参加費用は無料とすることが出来ました。更に、当日は大変お忙しい中ではありましたが、木村学長から直々にご挨拶（写真右）もいただきました。本稿で改めて心より厚く御礼申し上げます。



演習時の様子



木村学長からご挨拶

## 未来に向けて「看護職の働く場を知る」講演会を開催

看護学科就職対策委員会では、品川区地域密着型多機能ホーム東五反田倶楽部の松井典子看護師を講師に迎え、学生支援センターと共催で9月26日に就職対策講座「看護職の働く場を知る」を開催しました。この講座は多様な看護職の働く場について3年生を対象

に情報提供することをねらいとして今年度はじめて開催したものです。学生からは、暮らしの場で働く看護職の話聞き、患者本人や家族の価値観を支えるために看護職として感性を磨いていきたいなどの感想がきかれました。



## 「クリニカルスタディ1月号」掲載！

医療保健学部 看護学科 国家試験対策委員4名のインタビュー記事がメヂカルフレンド社「クリニカルスタディ1月号」（平成31年1月10日発行）に掲載されました。

取材は、11月に五反田キャンパスで実施し、「先輩談」として1・2年生から始められる国家試験に向けての勉強方法や、それぞれ看護師を目指したきっかけについてインタビューしていただきました。

## 平成30年度 医療栄養学科卒業研究発表会

### 「糖尿病レシピコンテスト」最優秀賞受賞

平成30年9月23日(日)に開催された「第5回チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテスト」(主催:公益社団法人日本糖尿病協会、後援:厚生労働省・文部科学省等)において、医療栄養学科3年三浦友暉、加賀美慎作、小澤亮太の3名は、最優秀賞を受賞しました。

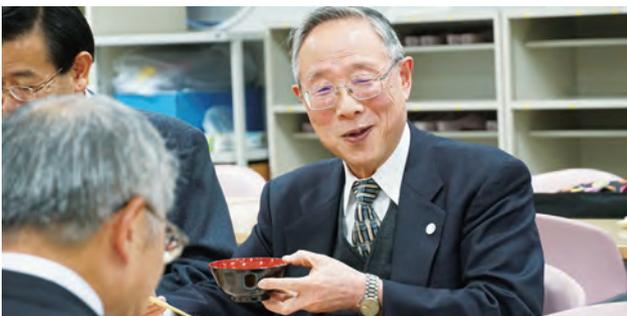
本コンテストは、若い世代に糖尿病への関心を高めてもらうことを目的に「おいしい、バランスの良い手作りごはん、健康&幸せ家族を目指そう!」をテーマとして糖尿病予備群や糖尿病患者用のレシピを募集するものです。応募資格は、日本在住で栄養士・管理栄養士を目指し学業に励んでいる全国の学生(専門、短大、大学)で、約2カ月間募集され、応募総数241件、学校数では47校より一次審査(書類審査)に応募がありました。このうち二次審査の最終選考には、東北地区で4校4チーム、関西地区で4校5チームが進み、本学学生は東北地区の1チームに選ばれました。最終選考では、応募者本人によるレシピの再現調理、審査員による試食審査が行われ、本学の男子3名が見事に受賞しました。三浦を中心に、夏休み前に献立を何度も立て直し、試作を繰り返し行い、「いただきます寿司!体も心も大満足 和食膳!」と命名して応募しました。8月下旬に一次審査通過の知らせを受けて喜んでいるのも束の間、次は二次審査当日、2時間以内に調理ができるよう綿密な準備と試作を繰り返し、その努力が実った結果となりました。

学生たちは「準備等大変でしたが、受賞できたことはこの上ない幸せです。」と、その喜びを話していました。

本学に入学してから学んだ食品学・調理学・献立作成・臨床栄養学など様々な知識や技術が統合され、実を結ぶことができ、素晴らしい達成感と榮譽を得ることのできた貴重な夏休みを過ごせたようです。

また、平成30年12月12日(水)には、この受賞報告を木村学長先生にさせていただきました。当日は、実際に受賞した献立を調理し木村学長先生、小西副学長先生などにご試食いただく機会を設けていただきました。先生方からは「美味しい」「見た目も素晴らしい」などの身に余るお褒めの言葉を頂戴することができ、貴重な経験ができました。

※受賞したレシピの写真は表紙に掲載しております。



### 学生による学会発表(研究・実践報告)

学生が学会において研究・実践活動を発表したものを紹介します。

#### ●特定非営利活動法人 第65回 日本栄養改善学会学術総会

平成30年9月3日～5日(新潟県:朱鷺メッセ)

『閉経前女性を対象とした月経周期に伴う体調変化と大豆イソフラボン代謝産物(エクオール)との関係に関する調査』  
発表者:遠田理沙、佐々木玲希、小玉恵理香、神田裕子

#### ●一般社団法人 日本家政学会 第70回大会

平成30年5月26・27日(2日間ともポスターを掲示)

『コーンスターチで置換した食パンの調製方法について  
—副材料の検討—』

発表者:宮田 美里、石橋 晶穂、濃沼 芳利、佐々木 郁実、  
鳥山 三華、中嶋郁実、原嶋 友里恵、西念 幸江

### 卒業研究発表会 題目一覧

医療栄養学科では、平成30年度卒業研究の口頭発表会を12月10日(月)に世田谷キャンパスで開催いたしました。意欲ある勤勉な学生が、真摯に研究に取り組んだ成果として、以下の演題を発表しました。発表者の4年生や聴講者の3年生で、活発な討論が行われ、充実した発表会となりました。

#### ●大道公秀研究室

『大腸菌の死菌・損傷菌が生菌の増殖に及ぼす影響』

#### ●加藤隆幸研究室

『お茶のアレルギー抑制作用の品種間差』

『食品由来ペプチドによる筋肉再生の制御』

『嗜好飲料による抗炎症作用のメカニズム』

『のどの痛みにも効果があるとされる食品の抽出液が自然免疫細胞に与える影響』

『アルコール飲料成分が生活習慣病関連の炎症に及ぼす影響』

『果実類の廃棄部分が炎症細胞に与える影響』

#### ●神田裕子研究室

『閉経前女性を対象とした月経周期に伴う体調変化と

大豆イソフラボン代謝産物(エクオール)との関係に関する調査』

#### ●北島幸枝研究室

『血液透析患者の食事療法に対する理解度の調査』

#### ●齋藤さなえ研究室

『粉末状高野豆腐を用いた蒸しパンのテクスチャーの評価』

『幼児期の野菜摂取に関する食育とセルフモニタリングの効果』

#### ●西念幸江研究室

『アレルギー代替食のレシピの提案-卵料理-』

#### ●清水雅富研究室

『Ames試験を用いたn-6系多価不飽和脂肪酸の変異原性について』

#### ●豊田英敏研究室

『学校教育における食育指導の現状と課題

～地域・家庭との連携を通して～』

#### ●細田明美研究室

『入院中の子どもに付き添う母親の食事に関する実態調査』

#### ●三舟隆之研究室

『古代資料に見える「大豆餅」「小豆餅」の復元実験』

『西大寺食堂院跡出土木簡に見える漬物の復元』

(指導教員五十音順)

## 2018年度 医療情報ゼミ 発表会

医療情報学科では2018年12月22日、3年次生による医療情報ゼミの発表会を実施しました。ユニークな題材や実用を目指したソフトウェア開発、卒業研究につながるような研究色の強いものなど、7ゼミそれぞれの取り組みと成果が報告され、活発な質疑応答が行われました。各ゼミの発表タイトルと、その中から今回は深澤ゼミの内容についてご紹介いたします。

## 発表題目一覧

## ●比江島ゼミ

- ・東京医療保健大学における「リア充」の定義

## ●瀬戸ゼミ

- ・災害の追体験を目的としたボードゲーム型教材の開発

## ●深澤ゼミ

- ・病院Q&Aデータベースの開発
- ・ベッドサイド支援システムの開発
- ・診療予約システムの開発
- ・診療情報管理士認定試験対策eラーニングシステムの開発

## ●津村ゼミ

- ・津村ゼミの学習内容
- ・医学用語辞書 作成
- ・基礎医学の学習と解説の作成

## ●柴野ゼミ

- ・歯周病と糖尿病の関連性について
- ・医療費の満足度

## ●駒崎ゼミ

- ・はじめに 情報技術と医療
- ・FileMakerGoのGPS情報取得機能を使ったモバイル植物図鑑
- ・MicroBitを使ったゲーム開発
- ・QGISを使った東京都の国勢調査結果と医療機関の配置を可視化した地図作成

## ●今泉ゼミ

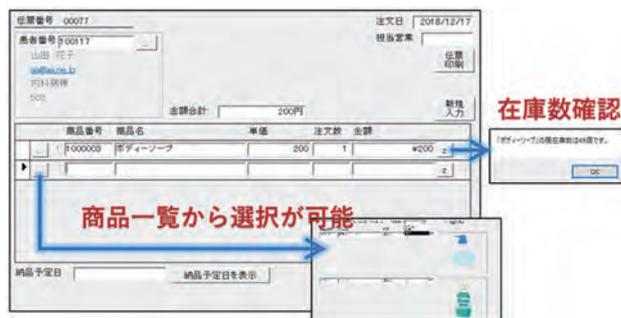
- ・室内照明を使用した睡眠誘導の可能性の検討
- ・ヘッドマウントディスプレイを用いた視野狭窄評価手法の検討
- ・2次元キャラクターの表情で人間の感情はどこまで突き動かされるのか
- ・注意機能評価を目的としたLEAPモーションの利用

(発表順)

## 深澤ゼミ

深澤ゼミでは、MicrosoftAccessを使ったアプリケーションの開発を行っています。2年生までに勉強したプログラミングやデータベースの知識や技術をもとに、ヘルスケアの分野におけるデータ管理を効率化するために、今何が必要かを考え、医療の質向上に貢献できるシステムの提案し、作成しました。平末さんの開発した「ベッドサイド支援システム」は、患者さんの入院生活をサポートするアプリケーションです。注文や商品のデータを売店と患者さんが共有することにより、患者さんが売店に行かなくても買い物ができます。さらには、医師や看護師と会話をする機能や一週間の献立を確認できる機能を追加する予定です。

医療情報学科 教授 深澤 弘美



ベッドサイド支援システム商品注文画面

## 2018年度 卒業研究 発表会

医療情報学科では2019年1月12日に、卒業研究の口頭発表会を実施しました。9月の中間発表を経て、1年間にわたり取り組んだ各自の研究成果が発表されました。今年度は、4ゼミから5件の発表がありました。研究題目は次のとおりです。

- ・一般に公開された市町村ならびに医療関連データを用いた医療サービスに関する研究
- ・臨床シミュレーション教育施設における運営管理と人的資源の活用に関する研究
- ・仮想的臨床環境における汚染部分の疑似的可視化を用いた感染予防教育アプリケーションの開発
- ・内服薬管理の改善方法に関する研究
- ・AIロボットを用いた臨床支援システムの開発

(発表順)

## 資格取得への道のり：「1～3年次生を対象とした国家試験対策」

本学部の学生の目的のひとつは、看護師資格を取得することです。この目的を達成させることは教職員の責任でもあります。本学部では、図のように1年次から全教職員による国試対策支援体制を構築しています。

1年次から人体の構造・生理学・疾病についての理解を深めるために、講義以外の時間でも活用できるDVDを利用した自己学習支援や、その習得状況を確認する国試模擬試験を実施しています。疾病の基礎的能力を身につけたうえで、3年次の各領域別の実習で実際の患者さんを通し、理解を深められるようにしています。

3年次には、国家試験問題の傾向を掴むために本番同様の模擬試験を実施しています。今年度からは、4年次生が2月に受けた国家試験問題を用いて学内模試として実施することも計画に入れています。

国試対策委員会では、各学年担当教員を配置し、適時、各学年に合わせた国試ガイダンスや学生へのアンケートを実施し、4年次に向けての構えを構築しています。3年次は、8月～1月まで臨地実習があります。この実習で看護師としての姿勢が構築されていきます。更に、実習での学びが国家試験に大きく影響してきます。特に、診断画像や心電図、検査データ、治療については学内での教育だけでは対応できない部分があります。学生は、受け持ち患者さんを通しての学びから系統立てた知識として印象深く記憶に残されていきます。

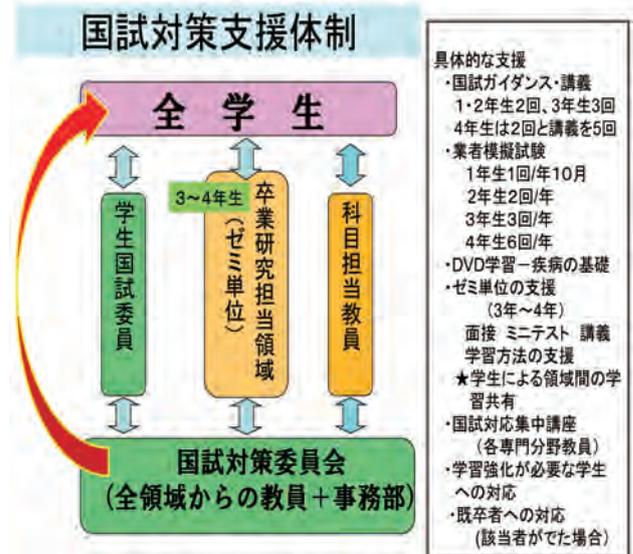
近年の国家試験出題傾向は、より実践的な知識と医療安全を重視したものと成ってきており、臨床での教育が重要です。今後は、大学側と実習の場である臨床側との連携が合格への重要な鍵と成って

きています。本学部では実習連携会議を定期的に行い、大学と臨床との教育連携強化を図っています。

国家試験に対応できる能力を身につけることは、資格を取得するという意味だけではなく、臨床現場に出たときに、自分の身を守ることに繋がる大切な知識と成っています。

本学は、学生が笑顔で卒業し、国民の皆様への期待に応えられる看護師を養成するよう今後も努力してまいります。

災害看護学コース 国家試験対策委員会委員長 いぬみつ ひろこ 岩崎 裕子准教授



## 卒業生と学生をつなぐ「卒業生との懇談会」

東が丘・立川看護学部「就職支援委員会」では、連携する国立病院機構をはじめとした病院への就職や大学院等への進学を支援するなど、さまざまな就職支援対策を行っています。「卒業生との懇談会」はこの就職支援対策の一つです。

「卒業生との懇談会」では、具体的に進路の方向性を決める時期にある3年次生と、様々な病院で活躍している本学部の卒業生との交流の場です。懇談会の目的は、学生が、通常の就職説明会では聞くことができない進路決定のポイントや就職活動について卒業生に相談をし、看護師の働く実態について情報を得ることで、今後の進路の決定に役立てることです。

近年、看護師の就職も第一志望が必ずしも通るとは限らない状況となっています。就職先として人気の高い病院は一次試験で応募を終了することもあり、3年次にインターンシップを経験したり、就職先の情報をできるだけ早く入手し検討することが必要になっています。「卒業生との懇談会」は昨年度まで、2月に実施していましたが、近年の就職状況を鑑み、本年度は12月に実施しました。

「卒業生との懇談会」に参加する病院は、3年次生の希望により決定しています。2018年度は14施設から24名の卒業生が参加しました。「卒業生との懇談会」は二部構成とし、第一部は、卒業生による施設紹介、第二部は卒業生と直接話ができる懇談会となっています。第一部では、学生は各施設の話を知ることができ、各施設の概要を知ることができます。学生は、各施設の概要について卒業生から忌憚のない意見を直接聞くことで関心や興味を持つことができます。第二部では、卒業生から勤務状況や病院への就職活動の

方法など一般の就職説明会では聞けないような具体的な話を聞いています。勤務の実態を知ることで、就業への意識を高め自分の今後の就職活動の方向性を見定めています。

今年度参加した3年次生は73名であり、参加率もよく、学生の就職に対する意識の高さが表れていたように思います。参加した3年次生の学生からは「卒業生が来てくれるので相談しやすい」、「実際に働いている卒業生の先輩から就職活動について話を聞いたので良かった」という意見が非常に多く、満足度も高い結果となっています。

3年次生はこれから本格的な就職活動を控えています。これからも本学部では学生全員が希望する進路に進めるように支援していきたいと思います。なお、就職支援委員会では、11月に国立病院機構の病院の説明会を開催し、16施設に参加いただきました。

東が丘・立川看護学部 臨床看護学コース 就職支援委員会 委員 なかほた かずえ なかはし ともこ 高畑 和恵・高橋 智子



第一部：卒業生による施設紹介



第二部：卒業生との懇談会

## 開学から一年の歩み

地域包括ケアに貢献できる看護師の育成を目指し開学した千葉看護学部は、早くも一年が経過しようとしております。この間、学生も教職員も広いフィールド観を養うべく、座学以外にも船橋市を中心に様々な学修や活動に取り組んでまいりました。試行錯誤しながらも着実に歩んできた道程をご紹介します。

入学から2か月後には、様々な健康レベルの人に提供される看護を現場で参加観察するための見学演習が行われました。学生はJCHOグループ病院の病棟や手術室、健診センター他、こども園、中学校に分かれて、5月と6月に2日間ずつ2か所の施設で看護の場を体験しました。その学びと体験から考えた「看護とは何か」について1分間スピーチという形で共有しました。

8月末には千葉看護学部初めてのオープンキャンパスを開催し、夏季休暇中でしたが多くの学生が協力してくれました。実習室での看護体験と展示、学内ツアーの企画ではどれも学生が中心となって説明を行いました。5月の合宿研修で調べた船橋市のこと、前期で学んだ看護技術など学修の成果を堂々と説明し、また、受験生へのホスピタリティある対応に、1年生とは思えないと来場者から感嘆の声が多数挙がる程でした。

11月は、船橋市が毎年実施しているイベント「ふなばし健康まつり」に出展しました。「健幸スポットマップを作りませんか？」をテーマに学生と参加型企画を実施し、家族で楽しめる場所を来場者の方から

教えていただいたり、健康クイズを行ったりと大変賑わいました。また、船橋市保健所・保健センターなど4つのブースにボランティアとしても参加し、禁煙等の啓発活動を体験しました。



12月には、日本医科大学千葉北総病院で開催された災害実働訓練には77名の学生が参加しました。負傷者役の学生は創部のペインティングを受け、割り当てられた怪我の状態に合わせて迫真の演技をしていました。また、ボランティア役の学生は負傷者のストレッチャー移動等をテキパキと行っていました。トリアージの実際や災害派遣チームの働きを身近で体験することができ大いに刺激を受けておりました。

一方、教職員も7月から40日間にわたる千葉県からの委託による実習指導者講習会の実施、本学部のキャンパス内歩道で行われた船橋市認知症高齢者徘徊模擬訓練の支援、有志によるミニ講義と事例検討会「まちの看護カンファレンスルーム」の開催などの活動をしておりました。

スタートしたばかりの学部ですが、船橋の地になくはない大学としての一步を踏み出した一年と言えるのではないのでしょうか。次年度は学生も教員も更に増えますので、今年度の活動を更に発展させて、またご報告できればと思います。

千葉看護学部

老年在宅看護学 准教授 川村 牧子  
小児看護学 准教授 田久保 由美子



## 基礎看護援助実習Ⅰを終えて

千葉看護学部で初めての实習となる基礎看護援助実習Ⅰが終了しました。本実習では、実習病院の看護師の方と共に複数の患者様の体温や血圧等のバイタルサイン測定、清拭や足浴等の清潔ケアを行うことで、援助の目的と方法を思考し、学内で学んだ知識と技術とを実践を通して深めるとともに、患者様ひとりひとりの異なる看護援助に必要な基礎的知識と技術を身に付けることを目的としています。

実習病院は、JCHOの船橋中央病院、東京城東病院、東京新宿メディカルセンター、東京山手メディカルセンターの4施設です。



学生は、学内実習としてバイタルサイン測定の演習を行った後、11月～12月に3日間の病院実習を行いました。1日目は初めて実際の患者様にケアを行うという緊張のなか、学内で学んだ通りにはいかない現場

でのケアの難しさを実感していました。2日目の実習の前には、1日目に感じた「現場の難しさ」を次回までの課題とし、動けない患者様を仮定し清潔ケアを行うといった病棟を想定した練習を行いました。こういった学習を2日目の後にも行い、最終日には、学生は患者様の状態を判断しながら積極的にケアを実践しました。

教員とのまとめの面接では、学生は「学内でも練習をしてケアが段々できるようになった」「患者様に合わせてケアの方法を変える必要性が分かった」「課題が明確になり積極的になれた」等の自己評価をしていました。他にも「看護師の方が丁寧に説明をしてくださり嬉しかった」「次の実習が楽しみ」という感想もあり、2年生の学修につながる効果的な実習となったと考えています。

基礎看護援助実習を担当した教員全員で、今年度の振り返りを基に、より良い実習内容を目指して次年度の検討を始めています。

千葉看護学部

基礎看護学 講師 安藤 瑞穂

## 一年目の勢い！ 地域を支える看護の創造に向かって

平成30年4月に100名超の学生を迎えてスタートを切ったばかりの和歌山看護学部ですが、学生・教職員ともども精力的に活動した一年目となりました。特に、本学部の教育理念にある、地域社会の看護の創造に向かって、とにかくやってみるという姿勢で地域と関わった1年でした。その中の極一部ですが、紹介したいと思います。

前期の講義では、密度の濃い時間割の中、アクティブラーニングを取り入れながら、自ら考え、表現することを多く行いました。先輩のいない中で、多くの課題を抱えながらも、前向きに取り組む姿が新鮮でした。「わかやま学 (health science of Wakayama)」では、和歌山県知事・和歌山市長を始め、多くのゲストスピーカーから、地域の健康を考える基礎となる知識をご教授いただきました。それぞれの熱いご講義に、本学に対する地域の期待をひしひしと感じました。



7月末には、日本赤十字社和歌山医療センターで基礎看護援助実習（早期体験実習）を行いました。実際の臨床現場に接し、それぞれが看護専門職を目指して学ぶ決意を新たにしました。

初めての实習、初めての定期試験と続くスケジュールの中、キャンパスの目と鼻の先で行われた紀州おどり「ぶんだら節」の第50回記念大会に、揃いの法被を着て参加し、地域の伝統・文化を盛り上げつつ、存在をアピールしてきました。また、連続してオープンキャンパスも開催し、将来の後輩や地域の方々と積極的に交流しました。



9月、夏期休暇中に行われた全学でのオーストラリア研修には、タイトなスケジュールであったにもかかわらず、和歌山看護学部からは11名の学生が参加しました。直前には大型台風の直撃に遭い、校舎、それぞれの自宅、空港・鉄道などに多大なる被害が出ましたが、全員が無事研修に参加でき、英語研修、現地での保健医療に関する講義や見学、ホームステイなどを行い、グローバルな視点を養ってきました。

秋の医愛祭では、本学科の1年生だけで人数が少ない中、日々遅くまで準備を行い、盛況の内に大学祭を開催することができました。他校からも企画・出展いただいたり、160km以上離れた新宮市のcaféに出店していただくなど、地元の方々の協力をいただきました。



10月には和歌山県と関係の深いトルコ共和国のメルジャン駐日特命全権大使をお招きした特別講演会の開催、12月には在京の大使館訪問と、国際交流活動にも取り組んでいます。



また、学部としての活動以外にも、学生それぞれが様々なボランティア活動にも参加しています。保健福祉分野でのボランティアから、地域の各種イベントの手伝いや援農まで、全件把握できているわけではないのですが、のべ100件を超える活動を行っているようです。もちろん、外に打って出るばかりでなく、日々基礎看護技術の研鑽、自主練にも励んでいます。



来年度には、学生数が2倍になり、ますますパワーアップすることでしょう。同時に教員数も倍になります。学生の成長とともに教職員も成長し、相乗効果で和歌山看護学部のさらなる活性化を図っていきます。また勢いだけでなく、これまでの取り組みは、中期目標のアクションプランとして「可視化」しました。情熱と計画性とを合わせもって、地域を支える和歌山看護学部を目指して邁進します！

突然の異動から広がった世界



私は今、都内大学病院で感染対策室専従看護師として勤務しながら、博士課程に在籍しています。

大学院に在籍していることを学生時代の友人に話すと「希望して異動したの?」「感染対策を極めようとしているの?」といったコメントが返ってくるのですが、そのたびに現在の部署に配属

になった2009年を思い出します。小児病棟、NICUなどを経て、呼吸器内科・外科病棟で勤務していたある日突然、現在の部署、感染対策室への異動辞令を受けました。異動当初は病棟とは全く異なる環境と業務内容に疲れ果て、さらに「どうして私がこの部署に?」という気持ちもあり、心身ともにつらい毎日でした。どうにかこうにか仕事を覚え、知識を深めたいと思い、まず日本看護協会認定資格である感染管理認定看護師を習得しました。

その後すぐに、関連施設へ出向し感染管理システムの再構築のため感染対策チーム (Infection Control Team: ICT) メンバーとして活動しました。この期間中に2剤耐性アシネトバクター・パウマニのアウトブレイクを経験しICTメンバーや院内各部署と協働して、院内のアウトブレイク対応マニュアルの立案、リンクナースを通じたスタッフ教育の徹底、手指衛生プラクティスの評価と改善、気管支鏡や喉頭鏡の除染方法の改善、さらに隔離室の終末清掃手順を確立し培養による効果の確認などを行い、一定の成果を得ることができました。しかしながら、当時は知識や経験も乏しく、各種のガイドラインや論文を確認しながら、毎日追われるような気持ちで日々を過ごし、科学的な思考を養う必要性を痛感しました。この経験をきっかけにさらに専門性を高めたいと考えるようになり本学大学院を志

しました。

修士課程では、患者用シーツへの細菌への移行と発生する浮遊粒子に関する研究テーマで先生方からご指導をいただきながら実験を行い、論文を提出できた時の達成感は今でも忘れません。普段実践しているプラクティスの科学的な根拠を様々な角度から定量的に検証していくことの重要性、論理的な思考過程を学ばせていただいた2年間でした。

2009年に思いもよらない形で飛び込んだ感染対策の世界でしたが、諸先生方の温かいご指導をいただき、職場の上司、同僚の助けを借りて、自分自身の世界が広がっていることを実感しています。

現在は、なかなか予定通りには研究が進まず一日が40時間くらいあったらいいのにと焦る毎日ですが、丁寧に確実に目標に向かって精進していきたいと思っています。

医療保健学研究科 博士課程 2年  
感染制御学領域 石井 幸



楽しい大学院生活

大学院に入学する前に、まずは入試個別相談会で小西敏郎先生に面談をして頂きました。先生とお話をさせて頂き、東京医療保健大学大学院に是非入学したいと思う気持ちになったことが昨日のこのようです。あれからあつという間に1年以上が経過しました。入学する前は授業についていけるのか、茨城県水戸市から通えるのかと不安な気持ちでいっぱいでしたが、実際には楽しく充実した日々の始まりでした。とは言え、社会人生活と学生生活の両立は体力的



職場での栄養管理業務の様子

につらく感じる時もありました。それでも頑張ってやってこられたのは、医療栄養学領域の皆さまと励まし合い支え合えたからだと思います。大学院の授業日がない時も、度々ラインで連絡を取り合いました。また、領域以外の医療職の方々との出会いも新鮮であり刺激的でした。

先生方も小西敏郎先生を筆頭に、医療栄養学領域には素晴らしい先生方がたくさんいらっしゃいます。碓井之雄先生の生体防御機能論の授業は、苦手な

生化学の話題がとても楽しく感じられました。鷺澤尚宏先生のお話しになるミラクルな世界観は刺激的でありましたし、谷口英喜先生の病院での学外実習、LLLセミナー様の授業も大変貴重な経験となりました。領域以外の必修科目でも、大変魅力的で個性的な先生方がたくさんいらっしゃり、とても充実した講義を拝聴することができました。坂本ですが先生からは、教科書からは決して学ぶことができない医療職としての必要なパワーを教えて頂きました。一番不安に思っていた統計学の授業は、比江島欣慎先生の明解な講義でとても楽しく勉強になりました。人生で初めて、統計と研究の関連性や、そもそも医療職は何のために研究をするのか、研究とは何か、真理の追究とは何かについて理解することが少しはできたかなと思います。(紙面の関係上、全ての授業を紹介できずとても残念です。)

これからも管理栄養士として業務を遂行していくにあたり、錆びた刀を振りかざして歩く専門職には絶対になりたくありません。そのためには日々の臨床経験を積むこと、そして絶え間ない知識の習得が必須要件だと思います。卒業後も大学院で学んだことは大きな糧になるはずで。あと残り1年は、研究をまとめて論文にするという大きな課題(試練)がありますが、悔いの残らない有意義な時間となるように全力で取り組みたいと思っています!

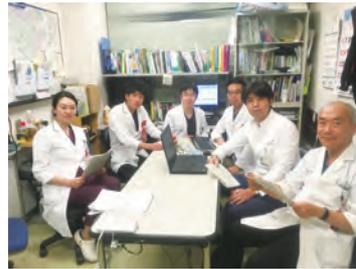
医療保健学研究科 修士課程 1年  
医療栄養学領域 立原文代

## 診療看護師として活動しています!!

米国では、50年以上前から活動しているNP（ナースプラクティショナー）は、「医師と同等の質の高いプライマリーケアを提供する高等な看護師」と定義され、診療も薬の処方も、州によっては開業もできます。日本では10年前（2008年）から大学院での養成教育が始まっています。チーム医療の中で、看護師としての役割をさらに発揮していくため、2014年6月に「特定行為に係る看護師の研修制度」が創設され、2015年10月より研修制度が開始しています。本学大学院修士課程は、指定研修機関の認証を受け、特定行為（21区分38行為）の全ての研修を行っています。特定行為も活用して実践に強い、自ら考え判断し、行動できる自律した看護師＝「診療看護師・NP」の育成を図っています。「診療看護師・NP」は急性疾患から慢性疾患の患者さんを生活面も含めて総合的・継続的にフォローできる能力を備え、医師の包括的指示のもとで特定の医療行為も実践することができる看護師としてチーム医療のキーパーソンとして活動しています。

私は、本学の一期生として卒業し、隣接する東京医療センターで診療看護師として活動し7年が経過しました。東京医療センターでは、当初は3名から活動を始め、現在は13名と全国で一番、診療看護師が多い病院となっています。診療看護師は、救急科、外科、総合内科、麻酔科、脳神経外科、心臓外科において、病棟管理、麻酔管理、手術助手、認知症管理、HIV外来、早期リハビリチームなど、各々の診療科のニーズに応えた活動をしています。自身の活動としては、まず急性期の真髄とも言える救急科で3年経験しました。そこでは

救急患者の初期対応から鑑別疾患、症状に対する内科的マネジメント能力と処置対応、他診療科、他職種とのコーディネート能力などを実践を通して学び得ました。次に慢性疾患領域や在宅診療にも役立つ術や、自分の中の専門性も見出したいと考え脳神経外科で活動し、現在4年目となりました。脳神経外科では外科領域の知識や手技だけでなく、入院から手術、退院まで医師と一緒にチームで担当することで、一人ひとりの患者にあった継続ケアを学ぶことができ、病棟NP=ホスピタリストとして今まではできない看護単位を超越した医療の関わりが日々充実しております。また臨床の傍ら東京医療保健大学大学院の講師として、教科書では学べない臨床実践を取り入れた授業をし、学生に診療看護師の活動がイメージしやすいよう心掛けております。今後も社会の理解を得るためのエビデンスを「つくり」「つたえ」「つかって」看護実践現場の改革ができるような取り組みを日々精進していく所存です。



東京医療センターの脳神経外科診療看護師と医師（左から2番目が著者）

い臨床実践を取り入れた授業をし、学生に診療看護師の活動がイメージしやすいよう心掛けております。今後も社会の理解を得るためのエビデンスを「つくり」「つたえ」「つかって」看護実践現場の改革ができるような取り組みを日々精進していく所存です。

東京医療センター 診療看護師  
忠 雅之（看護学研究科第1期修了生）

## 韓国における産後ケアセンターを視察して

昨年、目黒区でおきた実父母による子ども虐待から死亡させた事件は関係者に大きな衝撃を与え、わが国の母子保健の陰の部分を見た思いでした。さらに産後1年以内の女性の死亡原因の第1位は自殺で、「産後うつ」の女性が多いことも指摘されています。

本学では産後の母子への支援活動を考える一助として、平成30年10月28～30日、韓国の産後ケア施設を視察してきました。韓国では早い時期から産後ケアセンター等が設置され、この分野では日本の先をいっています。

訪問したのは、ソウル大学の名誉教授である李笑雨先生の紹介で公的施設（Songpa Maternity Care Center）と民間施設（Postnatal Care Center）の2か所です。

ソウル市内に産後ケア施設は、公的施設1か所、民間施設11か所あるとのこと。訪問したSongpa Maternity Care Centerは、地下2階、地上5階の建物で、地階は離乳食などの料理教室やヨガなどの運動をする施設で、1階は0～18か月までの児を預かるデイケアセンターで医師やナースが常駐しております。2階は産科婦人科クリニックと妊娠・出産に関する教育施設で、年間100回くらいの教育が行われていました。

産後ケア関連施設は3階から5階で、3階にはたくさんの赤ちゃんが日本の病産院のベビー室の様に並んでケア（沐浴や授乳）を受けていました。母乳育児率は20～30%とのことでした。産室にはベランダがついており、静かな庭園など散歩ができるスペースもあって、エステ室や赤外線室で母親が寛いでいる姿を見受けました。全体的に明るく清潔感あふれて落ち着いて過ごせる空間になっていました。産後3日目頃から14日間入所した場合の費用（公的施設）は、19万円、貧困家庭の場合は15万円に減額されるそうです。公的施設

が少ないため、常に満室で、募集が出るとすぐに予約で満室になるそうです。設置責任者（日本の保健所長に相当）の説明では、少子化対策としての産後のケアの充実と、育児技術の取得の場として女性の育児支援に貢献しているとのことでした。

民間施設は、14日間で最高100万円の部屋（写真）から、80万円、50万円の部屋もあり、常に満室とのことでした。産後の数日間を自分の身体に向き合い、回復過程をゆっくり過ごし、心も身体もリフレッシュできる空間として人気があるようですが、利用者は豊かな階層の女性が多いようです。産後の女性がとても大切にされている韓国の文化に触れた1日でした。今回訪問した産後ケア施設には、助産師の姿はほとんどなく、専門職である必要はないとのことでしたが、日本の産後ケア施設は、助産師が丁寧にケアしています。

日本の産後ケアは、母乳育児やストレス軽減など心身のケアができる助産師の関わりが求められており、ソフト面の充実が大きな課題であることを実感しました。

母性看護学・助産学教授 齋藤 益子



14日で100万円の個室(民間施設)



カメラのモニタリングによる新生児管理

# 平成31年度オープンキャンパス等日程

日 程	区 分	備 考
2019年5月31日(金)	高校教員対象大学説明会 (ベルサール八重洲)	
2019年6月15日(土)	ミニオープンキャンパス (五反田) ～A O・公募制対策～	首都圏全学部対象
2019年6月18日(火)	高校教員対象大学説明会 (雄湊)	
2019年7月21日(日)	オープンキャンパス (世田谷)	
2019年7月21日(日)	オープンキャンパス (船橋)	
2019年7月27日(土)	オープンキャンパス (国立病院機構キャンパス)	
2019年8月4日(日)	オープンキャンパス (雄湊)	
2019年8月10日(土) 2019年8月11日(日)	オープンキャンパス (五反田)	
2019年8月18日(日)	オープンキャンパス (国立病院機構立川キャンパス)	
2019年11月3日(日) 2019年11月4日(月)	医愛祭 (世田谷) (雄湊)	入試相談会実施
2019年12月8日(日)	全学部対象入試説明会 (五反田) (雄湊) ～一般入試教科別対策講座～ 《英語・数学・化学・生物・国語》	一般入試受験者を主対象にした 企画 (過去問題分析)
2020年3月22日(日)	ミニオープンキャンパス (五反田)	新高3年生・2年生を対象とし た企画 首都圏全学部対象

※上記の他、各学部学科で実施するイベントも多数あります。

※上記イベントの詳細や学部学科イベントについては、順次ホームページに掲載しますので、ホームページでご確認ください。

(入試広報部)

## 放射線看護研修センターの紹介

本学では、本学の教育研究資源を活用した社会貢献を目的として、さまざまなセンターを設置しております。その一つとして、2018年4月に放射線看護研修センターが設置されました。

放射線看護研修センターでは、主に、①がん放射線療法看護認定看護師の養成、②看護基礎教育に係る教員および臨床現場の看護師さん、保健所や市町村の保健センター等の保健師さんに対する放射線教育（トレーナーズトレーニング）、③放射線看護学に関する調査・研究を行っております。

本センターの「がん放射線療法認定看護師養成」課程は、日本看護協会が認証する21分野の認定看護師養成課程の一つで、現在、全国で本学も含めて4箇所でのがん放射線療法認定看護師の養成が行われております。放射線治療に関する専門性の高い知識・技術を習得し、放射線治療を受ける患者さんたちが安心して治療が受けられるように支援できる看護師の養成をめざしています。現在、関東圏の放射線治療を行っている病院から12名（定員）の看護師さんたちが参加し、7月から3月までの9ヶ月間の研修に取り組んでいます。勤務しながら研修を受けることは想像以上の覚悟と忍耐が必要とされますが、昼夜開講される講義・演習さらには4週間の実習に熱心に取り組んでいます（写真1）。



教員等に対する放射線教育は、全国に5か所の教育拠点を作ることを目標に2016～2018年の3年間は文部科学省の助成を受けて日本アイソトープ協会が主体となって開催してきました。本学（拠点の一つ）では、3年間で、約130名の教員、看護師さん、30名の保健師さんの研修を修了しました。本学の臨床検査演習室を使って行う放射線測定等に関する実習は、受講生にとって新鮮で印象深い学びとなっているようです（写真2）。本センターで研修を受けた教



員、看護職のみならずが患者さんや国民のみならずの放射線・放射線被ばくに対する不安等に的確に答えることができる看護師の教員に係ってくださることを期待しています。

放射線看護学に関連した調査研究では、原子力規制庁の研究助成をいただき、全国の病院、診療所の放射線防護管理の実態調査などを行い、医療領域の放射線防護・安全の改善、充実にに向けたデータを収集しております。

本センターの活動の成果が、将来の医療放射線利用のさらなる推進に貢献できることを願っています。

放射線看護研修センター長 草間 朋子

## 産後ケア研究センターについて

医療技術の向上などにより、日本の妊産婦死亡率は年々減少傾向にあります。しかし妊娠中から産後1年未満の死亡原因で、最も多い死因は「自殺」でした。そのため東京医療保健大学のビジョンである「地域に根差した医療」を掲げ、2018年4月、「産後ケア研究センター」を立ち上げ、同年6月には、品川区と包括連携協定を締結し、日本で初めての大学院と連携し産後ケア事業を行っています。運営は本学教員や大学院医療保健学研究科の修了生を中心に、指定の研修を修了した者が従事しています。本事業は米山万里枝教授が主体となり、産後うつによる自殺や乳児への虐待を減らすため「切れ目のない支援」を行い利用者の生の声を研究に生かしています。

現在産後ケア研究センターでは、主な事業



日帰り型 ホテルのお部屋からの風景

として電話相談、日帰り型・訪問型相談、産後ケア（日帰り・訪問）事業従事者研修などを行っています。

### <日帰り型>

品川区の「しながわネウボラネットワーク」の一環として2016年6月より開始、品川区内のホテルでの4時間のケア（ルームサービス昼食付）育児に不安のある産後4か月未満の母子を対象に、産後の母体ケアやリフレッシュする機会を提供し、助産師が相談に応じます。

### <訪問型>

生後6ヶ月までの母子宅に訪問し専門知識、技術に基づき乳房ケアや授乳指導を実施します。

### <電話相談>

電話で産後の体調や授乳について相談に応じています。



訪問型従事者と利用者の母子

# 国際交流

## International Exchange

### 第1回オーストラリア研修を実施

国際交流委員会では、第1回オーストラリア研修を、ゴールドコースト市のグリフィス大学において9月14日～23日の期間で実施し無事終了しました。初めての試みでしたが、医療情報学科を除く全学科の学生19名の参加を得ました。研修の目的は、英語、オーストラリアの医療、異文化交流の3つで、参加した学生はそれぞれの目的に関して、どれも満足のいくものだったと評しています。学生は全期間ホームステイをしながら、徒歩、バス、電車で通学をし



現地学生と調理実習を楽しむ学生たち

て、午前中は大学での授業を受けました。午後は、医療や栄養に関する講義、病院や高齢者施設の見学など、どれにも生き生きと取り組んでいました。特に、グリフィス大学栄養学科の学生たちとの共同調理実習では、オーストラリアのレシピに興味津々、和気あいあいの空気の中で、目を輝かせながらグループ別に何種類も調理して、それぞれに味見を楽しんでいました。

事前研修は8月21日と9月7日に2回実施し、結団式は木村学長ご出席の下9月7日に実施しました。また、現地での学びを振り返る事後研修も帰国直後の9月28日に実施しました。すべて、インターネットで和歌山と五反田キャンパスとをつないで実施しました。事後による学生アンケートによると、研修全体の満足度は5段階評価で5が72.2%、4が27.8%、今後継続に関する項目では、「是非継続すべき」と「継続する方がいい」の両方合わせると100%となっています。



現地学生と調理実習を楽しむ学生たち



カランビン  
野生動物保護園にて



ホストマザーと

この研修の報告会は、1月～2月に、各キャンパスにおいて実施しました。研修に参加した学生たちが分担して報告会で使用するパワーポイントを作成し、その同じ資料を使って、各学科の研修参加者が個人の体験も含めてそれぞれに報告しました。和歌山看護学部での報告会参加学生数は70名にも達し、この研修への期待と関心の高さがうかがえます。

### 国際交流センター主催の講演会を開催

9月24日、五反田キャンパスにオレゴン健康科学大学看護学部の和泉成子氏をお招きして、「アメリカにおける緩和ケアの動向と今後の方向性：看護師の役割に焦点を置いて」というタイトルでご講演いただきました。学生、教職員、および外部の大学・病院関係者合計46名が参加しました。日本でも重要になってきている緩和ケアに関して、先進的試みを行うアメリカの現状と今後についてお話いただきましたが、長く現地で研究を続ける和泉氏のご講演は、今後の緩和ケア、緩和ケア教育へ大きな示唆を与える内容で、講演後には活発な質疑応答が行われました。



緩和ケアについての講演会風景

### グリフィス大学広報担当者が本学を表敬訪問

第1回オーストラリア研修の受け入れ先であるグリフィス大学英語教育プログラム管理者Elene Austwick氏とZiyad Alwanの2名が、10月23日本学を表敬訪問しました。坂本国際交流センター長と今後のプログラムについて意見交換し相互理解を深めました。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子

# 女子バスケットボール部が大学日本一連覇の栄誉!

本学女子バスケットボール部は第70回全日本大学バスケットボール選手権記念大会（インカレ）にて、12月10日からの連日の試合に勝利。2年連続2回目の優勝を果たし、女子バスケットボール大学日本一の栄誉を勝ち取りました。

本学女子バスケットボール部は平成17年4月の私たち東京医療保健大学開学から1年後の平成18年に5人（経験者3人、初心者2人）の部員で関東大学4部リーグとして産声を上げました。創部から8年後の平成26年には関東大学1部リーグに昇格、その後もチームモットーである「今できることのベストを尽くす」の信念を持ち続け、強豪校との対戦に向けた厳しい練習を日々積み重ねチームを成長させてきた創部11年目、平成29年の第67回関東大学女子バスケットボールリーグ戦での初優勝に続き、全国9ブロック（北海道、東北、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州）からの代表強豪32大学によるトーナメント方式で争われた第69回全日本大学バスケットボール選手権大会で初優勝。しかしながら今年度は、怪我などで十分なコンディションで臨むことができず、春の関東大学女子バスケットボール選手権で5位、秋の関東大学女子バスケットボールリーグ戦では3位と、非常に苦しい厳しいシーズンで

したが、「今できることのベストを尽くす」チームモットーをばねに、12月10日から始まった第70回全日本大学バスケットボール選手権記念大会では、連日強豪校との厳しい戦いを勝ち抜き、12月15日の決勝戦に勝利をおさめ、大学日本一連覇の栄誉を勝ち取りました。

個人賞として、最優秀選手賞に永田萌絵さん（医療栄養学科3年次生）、優秀選手賞には若原愛美さん（医療情報学科4年次生）と平末明日香さん（医療情報学科3年次生）が受賞しました。

現在の部員は27人（4年次生7人、3年次生5人、2年次生8人、1年次生7人）、創部以来チームを牽引している恩塚亨監督はバスケット女子日本代表のスタッフを務め、現在、女子日本代表アシスタントコーチです。なお、卒業生7人がWJBL（バスケットボール女子日本リーグ）チームに所属しています。（プレーヤー6人、マネージャー1人）

女子バスケットボール部の頑張りを讃え、大学日本一の連覇の栄誉を祝っていただき、更に、次年度を見据え、引き続き皆さまのサポート、応援をお願い申し上げます。



# トピックス Topics

## 秋の叙勲受賞

昨年11月に政府の「秋の叙勲」受章者が発表され、山西文子副学長（東が丘・立川看護学部長）が、永年の看護業務のご功績により、「瑞宝単光章」を受章されました。

## 東京医療保健大学 PR活動について

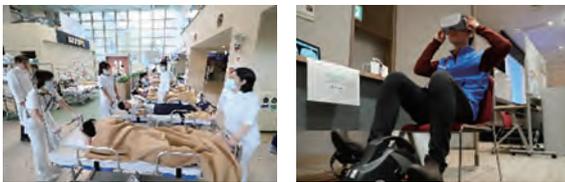
本学では、大学の教育・研究に関する取組や成果を幅広く社会へ発信していくため、メディアを活用した広報活動を進めており、昨年よりプレスリリース配信を開始しました。

プレスリリース配信サイトの「PRTIMES」を利用し、現時点で21件のニュースを配信しております。

配信する内容は主に、本学として新しい取り組み、他大学と比較して珍しい事項、学生の活躍（ボランティア活動、部活動等）、流行や時代に適応した画期的な教育や研究等をピックアップし、配信することとしております。

### ■PRTIMES配信ページ

[https://prtimes.jp/main/html/searchrhp/company\\_id/32781](https://prtimes.jp/main/html/searchrhp/company_id/32781)



### ▲リリース配信の中でも「いいね！」数が多かったトピックス

【左】東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 災害医療センター主催の災害訓練にボランティア参加～トリアージや臨時ICUなどを体験～

【右】東京医療保健大学が第4回「健康・生きがいメッセ2018」に参加～VRを使ったリハビリテーションや足圧分布測定を体験できるブースを出展～

今後も本学の特色ある取り組みを広めていけるよう広報活動を進めてまいります。

## 編集後記 Editor's note

「こころ」は、年2回の発行ですが、今号は、①昨年学長のリーダーシップの下に制定された「東京医療保健大学ビジョン」の実現に向け、具体的な行動計画として「アクションプラン」が策定され、同ビジョンに掲げる“多様な価値観を尊重し、一歩先を歩み続ける開かれた大学”づくりに、全教職員が一丸で取り組んでいる事、②本学の魅力を積極的に広報するためSNSを活用した情報配信を開始した事、③学生活動にお

## 東京医療保健大学 公式SNSのお知らせ



各SNSへのアクセス方法は、以下のとおりです。

### Instagram

#### ■東京医療保健大学【公式】

Username : tokyoiryohoken\_univ

大学案内とは違った角度から、各キャンパスの情報や大学の特色を紹介していきます。



#### ■医療情報学科info@東京医療保健大学

Username : thcu\_info

医療情報学科のある世田谷キャンパスを中心に、大学生活やレトロモダンな街並みを切り取り、溢れる魅力を学生募集部がお伝えしています。



#### ■THCU和歌山

Username : thcu\_wakayama

和歌山看護学部の活動や取り組みを身近に感じていただけるよう、情報を発信してまいります



### Twitter

#### ■進学info@医療情報学科

Username : THCU\_info

進学を考える高校生向け、学生募集部が医療×情報の魅力や進学情報、そして、これからの時代に必要とされる人材になるための情報をリアルタイムで発信します！



#### ■THCU和歌山

Username : @THCU\_Wakayama



### Facebook

#### ■和歌山看護学部

Username : THCU\_Wakayama



いては女子バスケットボール部が苦しみながらも「今できることのベストを尽くす」チームモットーをばねに、「大学日本一連覇」の栄誉を勝ち取り、感動を与えてくれた事、などを掲載しております。

東京医療保健大学は、今後も学生と共に全ての構成員が校歌にかかげる「生命・いのち」「思いやり」「人の絆」「愛」を大切に、さらに魅力ある大学を目指してまいります。 (B)